

都道府県労働局労働基準部労働衛生主務課長 殿

厚生労働省労働基準局安全衛生部労働衛生課長
(公印省略)

献血時の生化学検査の結果通知書の労働者の健康管理における有効活用について

平成16年7月に厚生労働省 薬事・食品衛生審議会血液事業部会等による審議を経て策定された「輸血医療の安全性確保のための総合対策」において「日本赤十字社は医療機関等が検査結果を健康管理上有用な参考情報として活用できる体制を整備するとともに、それを関係部局から医療機関等へ十分周知すること」と提言されたところである。それを受けて今般、血液対策課長より別添のとおり通知及び依頼があったところである。

については、労働者が事業者へ献血時の検査結果を提出した場合には、当該検査結果について産業医等の医師の判断を求めた上で、労働者の健康管理における参考となる資料として活用するよう、事業者等に周知されたい。

なお、本結果通知書は、労働安全衛生法第66条第5項のただし書きに定めた「他の医師又は歯科医師の行うこれらの規定による健康診断に相当する健康診断」及び同法第66条の2に定めた「厚生労働省令で定めるところにより、自ら受けた健康診断」の結果を証明する書面には該当しないことを申し添える。

薬食血発第 0323007 号
平成 18 年 3 月 23 日

労働基準局労働衛生課長 殿

厚生労働省医薬食品局血液対策課長



献血時の生化学検査の結果通知書等の改訂（お知らせ）及び
医療機関等における当該通知書の活用の推進について（依頼）

日本赤十字社は、献血者が希望する場合には、採血時の生化学検査結果（肝機能検査、総コレステロール値等）等を、後日、本人に送付しています。

この結果は、献血の都度送付され、継続的な健康管理に資するものであることから、医療機関等においても積極的に活用していただくことが従来より期待されてきました。

こうした中、当課では、日本赤十字社や貴職等関係部局との協議、薬事・食品衛生審議会血液事業部会等における審議を経て、平成 16 年 7 月に「輸血医療の安全性確保のための総合対策」を策定し、その中に「日本赤十字社は医療機関等が検査結果を健康管理上有用な参考情報として活用できる体制を整備するとともに、それを関係部局から医療機関等へ十分周知すること」を盛り込んだところであります。

同報告を受け、今般、日本赤十字社は、医療機関等が献血者の提示する結果通知書の内容を診療等の参考としやすいよう、結果通知書等に係る以下の改訂を行いました。

- (1) 結果通知書に 1 回分の検査結果のみではなく、健康状態の経時的変化を追うことができるよう、直近 5 回分の検査結果を提示（別紙 1）したこと
- (2) 当該検査方法、検査結果の解釈等（別紙 2）に関する不明点の問い合わせ先（電話番号等）を結果通知書に掲載したこと（当該検査の方法等は、医療機関等で実施されているものと変わりません。）

なお、別紙 2 については、日本赤十字社の医療機関向けのホームページ <http://www.jrc.or.jp/mr/top.html> にも掲載します（6 月予定）。

貴職におかれては、こうした体制整備の状況を踏まえ、事業者に対して、献血時の検査結果を労働者が持参した場合に健康管理に活用するよう周知願います。

生化学検査について

検査項目	検査方法	説明
ALT (GPT)	UV method IU/L	肝臓に最も多く含まれる酵素です。肝細胞が破壊されると血液中に漏れ出すので、急性肝炎で最も強く上昇し、慢性肝炎や脂肪肝(肥満)などでも上昇します。激しい運動の後に一過性的上昇がみられることがあります。
AST (GOT)	UV method IU/L	心臓や肝臓に多く含まれ、骨格筋、腎臓、血球にも認められる酵素です。心筋梗塞や急性肝炎、アルコール性肝障害などで上昇します。その他運動後に一過性的上昇がみられることがあります。
γ-GTP	Rate Assay IU/L	肝、胆道、膵、腎などに多く含まれる酵素です。上昇する疾患は閉塞性黄疸、肝炎、アルコール性肝障害などです。病気がなくても長期飲酒者では上昇することが多く、1ヵ月位禁酒するとある程度正常化します。
総蛋白 TP	Biuret method g/dL	血清中には80種類以上の蛋白が含まれ、種々の機能を持ち、生命維持に大きな役割を果たします。その総量を総蛋白として測定しています。
アルブミン ALB	BGU method g/dL	血清蛋白の50%以上を占めるアルブミンは、病気などで栄養が悪くなると減少するため、健康診断のスクリーニングとして大きな意味があります。
アミノ酸が流 AG		血清蛋白はアルブミン(A)とグロブリン(G)に分けられ、その比率は健康な人では一定の範囲にありますが、病気によってはその比率が変化(主として減少)してきます。
コレステロール CHOL	Enzym Assay mg/dL	血清脂質の一つで、一般に脂肪の多い食事を続けていると上昇します。また肝臓などで作られ、肝、胆道、腎、甲状腺の病気などでその値が上下することがあります。血清コレステロールが多くなると動脈硬化を起こしやすいとされています。

血球計数検査について

検査項目	単位	説明
① 赤血球数 RBC	$\times 10^6 / \mu\text{L}$	赤血球は血清の主な細胞成分で、酸素を運ぶための組織へ酸素運搬を持っています。
② ヘモグロビン量 Hb	g/dL	血液の赤い色は赤血球に含まれるヘモグロビン(血色素)によるもので、赤血球の働きの中核をなっています。
③ ヘマトクリット量 Ht	%	ヘマトクリット値は一定の血液量に対する赤血球の割合(容積)をパーセントで表したものです。
④ 平均赤血球容積 MCV	fL	赤血球1個の平均的容積 すなわち赤血球の大きさの指標となるもので、赤血球数とヘマトクリット値から算出したものです。
⑤ 平均赤血球量 MCH	pg	赤血球1個に含まれるヘモグロビン量を平均的に表したもので、赤血球数とヘモグロビン量から算出したものです。
⑥ 平均赤血球比容 MCHC	%	赤血球の一定容積に対するヘモグロビン量の比をパーセントで表したもので、ヘモグロビン量とヘマトクリット値から算出したものです。
⑦ 白血球数 WBC	$\times 10^4 / \mu\text{L}$	白血球は細菌などを貪食し、免疫情報を伝達し、さらに免疫能を発動して全体防御にかかわっています。細菌感染症があると一般に白血球数は増加しますが、ウイルス感染症の場合はかえって減少することもあります。
⑧ 血小板数 PLT	$\times 10^4 / \mu\text{L}$	血小板は出血を止めるための重要な働きを持つ。この値が極端に減少すると出血を起こしやすくなります。

※検査項目①～⑧の値は貧血の有無を知る目安となり、貧血の場合検査項目④～⑧の値がその種類の判定の目安となります。これらの検査項目であなたが健康であるか否かを判断することはできません。

標準値表

検査項目	標準値(1)
生	
ALT	5~45
AST	10~40
γ-GTP	10~70
化	
TP	7.0~8.5
ALB	4.0~5.5
AG	3.0~4.5
検査	
ALT	5~45
AST	10~40
γ-GTP	10~70
置	
コレステロール	170~250
CHOL	170~250
赤血球数	男性4.5~5.9 女性3.7~5.0 $\times 10^6 / \mu\text{L}$
血	
ヘモグロビン量	男性15.5~19.0 女性12.0~14.9 g/dL
Hb	男性15.5~19.0 女性12.0~14.9 g/dL
球	
ヘマトクリット値	男性39.0~50.0 女性34.0~44.0 %
Ht	男性39.0~50.0 女性34.0~44.0 %
計	
平均赤血球容積	80.0~100.0 fL
MCV	80.0~100.0 fL
平均赤血球量	26.0~34.0 pg
MCH	26.0~34.0 pg
平均赤血球比容	32.0~36.0 %
MCHC	32.0~36.0 %
白血球数	35~100 $\times 10^4 / \mu\text{L}$
WBC	35~100 $\times 10^4 / \mu\text{L}$
血	
血小板数	14.0~38.0 $\times 10^4 / \mu\text{L}$
PLT	14.0~38.0 $\times 10^4 / \mu\text{L}$

1) 上記の標準値は、認面を希望された方々の検査結果から算出したもので、正常または異常を基するものではありません。